

ねらい

博物館には、学校、家庭にはない膨大な資料と情報の蓄積や高性能な機材があり、更にそれを専門に扱う職員がいます。これらを活用した学習は、学校の「教育力」をさらに向上させる大きな力になると考えています。

そこで、博物館では、「学ぶ楽しさ」を味わうことができる学習活動を展開することを目的に、学校と積極的に連携、協力を図りながら、観察や体験などを取り入れた学習支援活動を実施しています。

現状と課題

常設展示室

<学習支援展示「むかしのくらし」団体見学利用状況(平成20年度)>

	小学校数	人数	【アンケート集約より】	
市内	30校	2348人	・平均見学時間 40分	・ワークシートの使用 学校配布 90% 当日配布 5% 未使用 5% 事後学習 38% (複数回答あり)
三重郡	2校	140人	・時間が短かった 28%	
その他	6校	239人	・ちょうどいい 72%	
合計	38校	2727人	・長かった 0%	

常設展示室では、年間を通して学習支援展示を実施しています。小学校6年生を対象とした「大昔の四日市 弥生時代と古墳時代」、全学年を対象とした「四日市空襲と戦時下の暮らし」、「四日市港の歴史」、「四日市の焼き物 萬古焼」や、小学校3年生を対象とした「むかしのくらし」です。特に「むかしのくらし」は社会科の学習支援として



授業をより充実させるために、実際の道具の展示・体験、ボランティアによる体験談、ワークシートなどを活用しました。学校内だけでは得られない体験に、子どもたちは興味・関心をもって学習に取り組んでいました。

学習支援展示をより多くの学校で利用していただけるように、教職員を対象とした「体験的博物館講座」などで、展示内容や資料、体験グッズなどの情報を提供し、学習支援の展開や効果について広く呼びかけていきます。

<学習支援展示>

学習支援展示	期間	主な内容
大昔の四日市 弥生時代と古墳時代	4月～6月	四日市出土の弥生時代の土器や古墳時代の埴輪などの紹介 レプリカによる大昔体験
四日市空襲と戦時下の暮らし	6月～8月	四日市が空襲に遭ったことや戦時下の暮らしの様子を実物資料、写真パネル、模型などで紹介 ボランティアによる体験談
四日市港の歴史 【平成17・18年度実施】	10月～12月 毎年3つの うちいずれかの テーマで実施	江戸時代の湊から近代四日市港への修築のようすとそれに関わった人々について紹介
四日市の焼き物 萬古焼 【平成19年度実施】		四日市の伝統産業である萬古焼について、古萬古・有節萬古・四日市萬古と呼ばれる焼き物を中心に紹介
東海道と四日市 【平成16年度実施】		東海道の宿場町「四日市」の様子と当時の旅について浮世絵などの資料で紹介 「東海道すごろく」「江戸時代の旅」体験
むかしのくらし	12月～3月	祖母、祖父が子どもの頃の様子、母、父が子どもの頃の様子を生活道具を中心に暮らしの移り変わりを紹介 ボランティアによる体験談 ワークシート

プラネタリウム

プラネタリウムでは，学習支援活動を大きく3つに分けて実施しています。

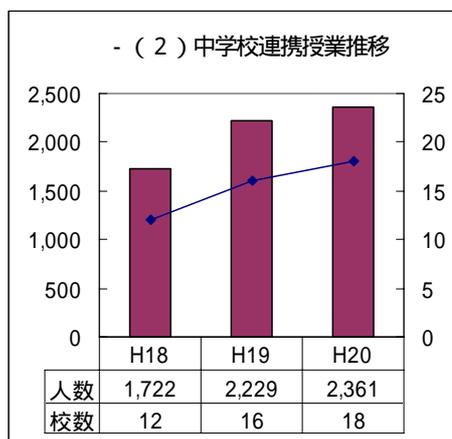
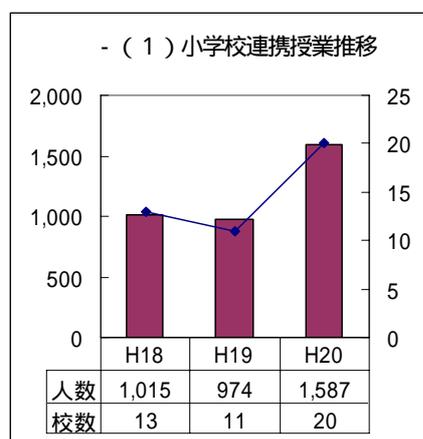
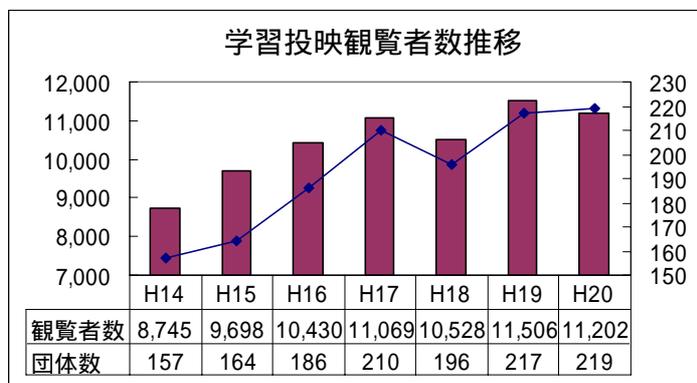
全学年を対象としたプラネタリウムでの学習投映

連携授業

(1)小学校4年生を対象とした「立体映像装置を活用したバーチャル星空探検」

(2)中学校3年生を対象とした「移動式プラネタリウムによる天文学習」

移動天文車「きらら号」による観望会



平成20年度移動天文車活用状況

- ・ 4/25 橋北中 37名
(少年自然の家で実施)
- ・ 5/15 西陵中 80名
(少年自然の家で実施)
- ・ 10/9 中央小 90名
- ・ 10/16 朝上小 140名
- ・ 1/27 楠小 200名

プラネタリウムや立体映像装置を用いると，天候に左右されることなく星空を授業時間内で再現でき，3次元的な視点で天体の動きを捉えさせることができます。

これらを用いた授業では，子どもたちは紙面やテレビ画面を用いる以上に理解を深め，「学ぶ楽しさ」を実感していました。また，自然教室等の行事を利用して，きらら号の大型望遠鏡による星空観察会を実施し，実際の星空でも天体の学習をすることができました。

今後も多くの学校で実施できるように，学校との情報交換を行いながら連携を深めていきます。

今後の改善方針

学習指導要領の改訂に伴い，展示内容を工夫し，より発展的な学習ができるようにするとともに，体験グッズやワークシートの充実を図ります。

学習意欲を高めるため，子どもたちの身近な素材を活かしたコンテンツを数多く制作します。

「評価」を工夫することで，課題を明確にし，授業をより良いものに改善します。

より多くの学校と連携して授業が実施できるよう，実施状況を公開し学校との連携を深めていきます。